

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	2019年度
氏名	小林 光子	指導教員 (主査)	糸井 志津乃

論文題目	保育所看護職の健康管理の視点と対応
------	-------------------

本文概要	
<p>【目的】</p> <p>保育所看護職の健康管理の視点と対応を明らかにすることである。</p> <p>【方法】</p> <p>2018年7月～9月に、都内近郊3県の保育所に在職中の看護師7名から研究協力の了承を得て、インタビューガイドを使用し、半構造化面接を実施した。面接結果をICレコーダーで録音後、逐語録を作成し、視点からの対応を一連の流れと捉えている箇所の文脈を考慮し意味を要約した。</p> <p>研究方法は、広く現象学として捉え、「意味単位」の生データの見直しや、他のデータとの比較をしながら統合や分類を繰り返し、「意味群」から「サブテーマ」を生成し、さらに、「サブテーマ」同士の内容の類似性と相違性を比較検討しながら関係性を解釈し、「テーマ」、「大テーマ」を導き出した。</p> <p>【結果】</p> <p>研究対象者7名は、平均年齢51.2歳(36歳から65歳)の女性の看護師であり、平均保育所勤務年数は、20.7年であった。7名の語りから、保育所看護職の健康管理の視点と対応を表すテーマは、【子どもの健康・発達の視点から、子どもの健康を阻害する状況の把握】【子どもの健康・発達の視点から医療機関や専門機関へ繋げる行動】【子どもの健康・発達の視点から、子ども健康・発達を阻害する原因や状況を理解した看護】【母子関係や母親の養育の視点から育児支援へ繋げる行動】【子どもの健康被害リスクの視点から、安全確保対策を図る】であった。</p> <p>【考察】</p> <p>保育所看護職は、日々、子どもの健康・発達の視点から健康状況把握と看護実践を行っており、子どもの健康面を管理し、疾患や障がいのスクリーニングを行うといった役割をとっていた。医学的知識や療育、小児看護の技術を生かした援助を実践することは、保育所での他の職員では行えない役割であると考えられた。そして、母子関係や母親の養育の視点から育児支援を繋げる行動をとり、地域の子育て支援の役割を担っていた。また子どもの健康被害リスクの視点から、リスクを回避するための職員の意識の向上と安全確保に向けたマネジメント活動を実践していた。</p> <p>保育所では、低年齢児保育、長時間保育、慢性疾患や障がいを持つ子どもの保育に加え、地域の子育て支援など多岐にわたるサービスを実施している。そのため、保育所看護職が、健康管理の面でリーダーシップをとっていくことが期待されている。</p> <p>【キーワード】 保育所看護職 健康管理 視点 対応</p>	